

えと文



スタイル

藤田 龍児

変貌の激しい時代に即応するため、(次の来るべきものに最も敏感な)多くのおもに若い世代は、歴史的現実の基盤を掌握するいとまなく、過去との断絶より来るスタイルを生み出している。いわば最も奇抜なスタイルを撰取することにより、何かを発見しようとしている結果、そこにはにがにがしく現われる空転の再認識すらなく、明るい程に疑念もなく、次のスタイルを渴望する。また四囲の空虚さはそれを強いているのである。

僧侶の褐色の僧衣も同様に、英国人の黒好みのスタイルは、ロンドン一帯の媒煙がその一因として一般的に知られているように、また若い世代のスタイルが時代に相応しているが如くに見えるのも、人為的な必然性であり、このあたり悪循環のごとくスタイルのためのスタイルを創り出し、そこに必然性からやや泛いた馬鹿馬鹿しいものも見られるゆえんでもある。

その流行の源泉はともかく、それぞれ環境の異った地域にある若い世代が一応求めているものが似かよったものだということは、怖ろしくもまた不思議な現象である。

思想とスタイルが別個のものであるとすれば、むしろ幸であるが、これは空転そのものが次元の異った型で現われた思想とでもいふべきだろうか……流行と伝統も、伝統と流行に代わるテンポの早さとも感じられる。(美術文化協会々員)